

様式 7-1

平成19年度開始 交付金プロジェクト研究課題 事前評価結果

課題名：地域材を活用した保存処理合板の開発

主査氏名（所属）：秦野 恭典（複合材料研究領域長）

担当部署：複合材料研究領域、木材改質研究領域

参画機関：北海道立林産試験場、京都大学生存圏研究所

研究期間：平成19～21年度

1. 目的

「二百年住宅」のような長寿命の木造住宅を実現するためには、地震に耐えるための耐力壁等に使われる合板の高耐久化、すなわち防腐・防蟻性能が必要となる。建築基準法等の関連法規においても、地盤から高さ1m以内の部分の合板について、防腐・防蟻処理をしなければならないことが定められている。しかし、現行の合板のJAS規格（国家規格）には防腐・防蟻性能に関する規定がないため、一部において混乱が生じている。そこで、農林水産省は、現在行っている合板のJAS見直し作業において、防腐・防蟻合板のJAS規格化のための検討を開始した。本プロジェクトは、防腐・防蟻合板（保存処理合板）をJAS規格に位置付けるために必要なデータを整備することを目的とする。

2. 終了時に得たい成果

本プロジェクトでは、保存処理合板を新たに JAS 規格化するために検討が必要とされている下記の4点についてデータを整備していく。①保存薬剤処理が接着耐久性に及ぼす影響の解明、②保存処理合板中の薬剤の分析・定量法の確立、③防腐・防蟻性能を担保するための必要な薬剤量の解明、④シックハウスで問題となる揮発性有機化合物（VOC）の放散抑制の解明。これらの成果は、農林水産省の JAS 規格見直しに反映していく。このことにより地域材を用いた合板の新たな需要拡大が期待される。

3. 評価委員の氏名（所属）

筑波大学大学院 生命環境科学研究科教授 土居 修一

4. 評価結果の概要

本プロジェクトは4つの実施課題によって構成されており、保存処理合板の製造にかかわる検討から供用中の合板の住環境に及ぼす影響の検討まで、全面的に網羅している。各課題を迅速、的確に進めるための適切な専門家の及び専門的機関の配置がなされており、計画目標の達成が十分にできると予想される。

5. 評価において指摘された事項への対応

各課題を迅速・的確に推進し、期間内に研究目的を達成する。